

【レポート】

敦賀市職員労働組合では、2023年3月より「フライングミーティング」と題して、入庁前の新規採用者を集めて、交流会（敦賀の観光地巡り・謎解き・お食事）をスタートさせました。その交流事業を通じて、新規採用者や執行部のマインドの変化や、効果、これからの展望など、私を感じたことを中心に報告します。

フライングミーティング（事前交流会）で 新採職員の入庁前の不安を解消！

福井県本部／敦賀市職員労働組合・執行委員長 落合 崇

1. 開催のきっかけ

「入庁前の新規採用職員と若手職員の交流会を開きませんか？」

2022年末、自治労福井県本部の池内幸四朗オルグ書記（現・組織部長）さんと岩佐直樹特別執行委員さんとオルグをした際、そんな提案がありました。池内さんからは、ここ数年、若手職員の離職が増えている、その要因として、入庁前に抱いていた仕事のイメージと入庁後の実態にギャップがあること、入庁後に相談できる相手が少ないことがあり、その要因を軽減するために、採用前の新採職員と交流会を開いてはどうかとの話がありました。

敦賀市職労では、ここ数年のコロナ禍の中、若手職員同士の交流機会が減っていることや、若手も含めた職員の離職が気になりになっている状況がありました。また、私自身が新採職員だった頃を思い返すと、入庁前、仕事や職場についての情報が少なく、不安な気持ちを抱いて入庁したことを思い出しました。県本部からの提案を聞き、交流会を開催することは、新採職員に事前に職場の雰囲気を知らせてもらう機会となることや、同期や先輩といち早く知り合うきっかけとなることから、メリットも大きいと感じました。「企画の支援はもちろん、財政的な支援（県本部の組織強化・拡大促進助成金）もあります」との池内さんからの力強い後押しもあり、新採職員と若手職員の交流会を3月下旬に開催することにしました。

敦賀市役所新採職員 事前交流会
**フライング
ミーティング**
3月25日(土) 入道の謎解きイベント、ランチ交流会

入庁前から不安な気持ち（克服）
若手の先輩に質問したい！
ランチミーティングのついでか楽しみ！

9:45~ 集合は入庁前の地味なイベント、朝飯屋
10:00~ 謎解き（謎解き）謎解き
10:30~ 謎解きツアー（金ヶ崎緑地内をめぐりながら）
12:00~ ジュニースタイルランチ交流会（天ぷら・おでん・味噌汁）
13:30 解散

※2023年3月25日（土）は祝日のため、祝日の扱いとなります。
※謎解き、おでん、味噌汁は4食です。
※この交流会の参加料は無料です。交通費や入庁後の通勤に費用がかかることはありません。
※謎解きツアーとは、参加者が金ヶ崎緑地内をめぐりながら、謎解きやおでんや味噌汁を味わいながらのイベントです。コミュニケーションが活発な方も、みんなで大盛りだくさんのイベントです。

※申し込みは事前から、当日の参加申し込みが必要です。
申込締切 3/15

企画にあたり、池内さんから「研修会といった堅苦しい雰囲気ではない方が参加しやすいのでは」との話もあり、「気楽な交流」をテーマに、敦賀市の観光施設が数多くある金ヶ崎緑地エリアにて、謎解き周遊ツアーとランチミーティングを行うことにし、イベント名も柔らかいイメージにしようと「フライングミーティング」としました。

2. 交流会当日

3月25日に開催した交流会には、新採職員の半数以上が参加してくれました。交流会では、新採職員4人と若手職員2人を1グループとして活動してもらいました。初対面同士で「いきなり謎解きツアーに行ってください」ではお互いに緊張するだろう、と考え、まずは研修室でグループごとに自己紹介をしてもらいました。簡単な自己紹介のあと、なるべく心の距離を近づけてほしいと思い、自分の意外な一面を紹介し合う「実は自分は〇〇なんです」というアイスブレイクにも取り組んでももらいました。各グループからは「実は少年漫画が好き」「元甲子園球児」「美容室は大阪に遠征」などの話が聞こえてきて、私も話の輪の中に混ぜてほしい！と思うことが沢山ありました。



お互いの自己紹介をした後、金ヶ崎緑地周辺を散策する謎解きツアーに出発。緑地周辺の4地点の謎を解いて回ります。各地点ではメンバー同士が協力して謎を解く姿が見られ、ゴールする頃にはお互いに打ち解けたようで、笑顔も多く見られました。

その後は、緑地周辺にあるイタリアン料理店でランチを食べながらの交流会です。グループ分けは、入庁後の職場・職種が近い人同士を同じグループにし、新採職員が配属される職場や業務に関連した質問に若手職員が答えられるよう工夫しました。おいしい料理を交えていることもあり会話も盛り上がり、どのグループも楽しく交流できたと思います。



3. 交流会を終えて

参加者アンケートでは、ほぼ全ての方から企画に満足できたとの回答がありました。「同期だけでなく、先輩の話を聞くことができ、仕事のイメージができた」「先輩方と入庁前に交流できて良かった」との感想もいただきました。

入庁後、新採職員同士が職場で話す場面を例年より多く見かけます。私自身、交流会を通して、新採用職員と面識を持つことができたので、職場でちょっとした一声をかけられるようになりました。また、副次的効果かもしれませんが、2022年よりも多くの新採職員に組合に加入いただくことができました。

事前交流会は初めての試みではありましたが、新採職員の入庁前の不安軽減に貢献できた、と手ごたえを感じています。仕事をしていく上で気軽に話せる相手、相談できる人がいることは仕事に対するモチベーションアップや自分自身の心の安定・安心につながると思います。今回の交流でできた絆をより強いものにできるよう、今後も組合活動を通じて支援していきたいと考えています。

4. フライングミーティング 2年目

1年目フライングミーティングを終えて、新規採用者の交流が図られたことや、その新規採用者たちが、今も元気に出勤している姿をみて、この取り組みは、継続してこそ意味があるものだと感じました。この企画が、敦賀市職労の恒例イベントになるまでは組合の役員として活動を続けていきたいという気持ちが芽生え、今も敦賀市職労の執行委員長を続けております。



2年目のフライングミーティングを企画する上で、最も大切にされたことは、新規採用者の年齢に近いユース層（入庁2～5年目程度）の職員がどれだけこの企画に企画してくれるかでした。敦賀市職労の青年部に企画の段階から入ってもらうことで、普段の業務ではなかなか交流が少なくなっている若手職員同士のつながりもつくれたかなと思っています。

2年目も継続して実施したことの一番の収穫だと感じているのは、敦賀市職労の執行部や青年部の役員だけで作り上げたわけではなく、1年目のフライングミーティングに参加した前新規採用者が企画に積極的に参画してくれたことです。「あのとき参加して楽しかったから」や「フライングミーティングでつながり（同期や先輩）ができたことが今の仕事にも役立っている。ぜひ私たちと同じように入庁前から仲良くなってほしい」など、新たに入庁する後輩のことを想って参加してくれたことがなによりもうれしかったです。このように「もてなされた側」が次は「もてなす側」にまわる。それが毎年毎年繰り返されれば、きっと敦賀市役所全体の活気につながると思いますし、そんな好循環がきっと若手職員の離職への歯止めにもなるのではないかと確信しております。さらにはイベントの中身が毎年アップデートされることで、地域とのつながりも深まり、この先、公務員として働く上で必要なスキルや、社会的な課題への関心、社会貢献を志すマインド形成も同時に図っていけるのではないかと思います。

このフライングミーティングという取り組みを継続し、交流でできた絆をより強いものにできるように今後も組合活動に邁進してまいります。

